

Kasugaoka J.H.S

明日への扉

アスヘノトビラ

平成30年1月号

京都市立春日丘中学校

道徳通信

学校教育目標
『確かな自立』『志ある貢献』

新年になり、約1か月が経とうとしています。たいへん寒い日が続いていますが、みなさんは元気に過ごせているでしょうか。

いよいよ受験シーズンの到来です。3年生のみなさんが、これまでの学習の成果を存分に発揮し、それぞれが望む進路を開拓できることを願っています。目標を持って取り組んでいる最中は、先が見えずに不安になったり、投げ出したくなることもあるでしょう。今がしんどい時期だと思います。しかし、最後までやりきった人にしか見えない景色が必ずあります。ゴールまであと少しです。自信をもって「一歩を信じて」前へ進んでくださいね！

桜の咲く季節が、間違いなく近づいていますよ❀



--*-*-***授業の様子を紹介します***-*-*-*-*



“方言と出会うということ”

日本全国にはいろいろな方言があり、多くの人々が、その土地特有の方言を毎日使っていますが、方言についてはあまり意識せずに過ごしているように思います。この時間は、広島に住む筆者が、福岡県の異なる市に住む「いとこ」の方言の違いに注目し、それぞれの方言の良さについて書いた『方言という輝き』と、神奈川に住む筆者が宮城に住む祖父母の家で方言について興味を持ち、方言が人と人の絆^{きずな}を深める働きをすることに気づいたことを書いた『人と人とを結ぶ方言』という二つの生徒作文を通して、方言について考えました。

方言というと、私たちの住む京都から遠く離れた場所にあるように思いがちですが、京都にも方言は存在します。みなさんが各地の方言を魅力的だと感じたように、他の都道府県から見ると京都の方言も魅力的です。方言を魅力的にするのは、その地域に住む人たちの地域への思いなのかもしれませんね。各地の方言を紹介しましたが、他の地域を知ること、改めて自分の地元に関心をはせる機会になっていたらうれしいです。

お気に入りの方言を一つ、あげてもらいましたが、沖縄の方言「なんくるないさー」（なんとかなるよ）を選んだ人が多く、優しい感じがする、温かい印象がある、印象的な言葉だからという意見が多数ありました。福島方言「ぼっぼいな」（あたたかいな）は、「ぼっぼ」が韓国語でキスという意味だから気に入ったという意見もありました。

《ワークシートより（授業の感想）》

- 自分が他の都道府県に行くと方言ってかわいいなと思うけど、自分が気づかないだけで京都にも方言はあるし、自分の地元のことをもっと知って、もっと好きになりたいと思う。
- 方言は、相手の言っていることがわからなくて、あまりいいイメージがなかった。でも、方言を使うことによって親近感を持てることができるのだと初めて知った。方言に対する考えが変わった。
- 47都道府県に存在する土地の気候や風景を含めた人々の暮らしの中でしか生み出せないのが方言。貴重なものだとして初めて知った。
- 方言は、「ふるさと」に存在する魔法の言葉だと思った。自分が一番落ちつく「ふるさと」の方言についてもっと知りたいと思った。
- 方言は人と同じで、いろいろあってみんないいと思う。かわいくて、覚えたい方言ができました。





2年生

“ローテーション道徳”

1月から“ローテーション道徳”で、学年のいろんな先生が授業をしています。いつもは担任の先生が、同じ時間帯に同じ指導案で授業をしますが、ローテーション道徳では、授業をする先生がそれぞれの教材を準備して、各クラスを回ります。1回目の授業では、藤本先生、石井先生、大谷先生、金沢先生が授業を行いました。藤本先生は集団の中で自覚と責任を持って一生懸命、野球に励む主人公の姿を描いた「奇跡の背番号1」、石井先生は今の自分にとって必要な努力とは何かを考え、今、自分がすべきことに気づかせてくれる「努力し続けること」、大谷先生は世界を変える方法とは何か、という課題を出された少年とともに、自らも考える「次へ渡せ」、金沢先生は自分の使命を果たそうとするある力士の半生を描いた「強い意志」という教材でそれぞれ授業を行いました。



《ワークシートより（「次へ渡せ」授業の感想）》

- ・映画をみて、トレバーの考えは良い考えだなと思った。自分も誰かに助けてもらったら、小さなことでもいいので誰かの役に立てるようにしたい。
- ・今日の学習を通して、人のために自分が行動すると世界は少しずつ変えられるのだと知った。ささいなことであっても、人のために行動したいと思う。
- ・世界という大きなことを変えるには、一つひとつの小さな積み重ねが大切だと思った。
- ・友達や先生に何回も助けられたことがあるので、私もいろんな人の役に立ちたいと思った。
- ・人を助けることで世界が変わるなら、これからどんどん人を助けていく。そして自分の助けた人が、また誰か他の人を助けてほしいと思う。



3年生

『箱根駅伝』～絆の物語～

中学校生活最後のテストが終わり、いよいよ、それぞれの進路に向けての入学試験が始まります。3年生はテストの連続であわただしい日々ですが、残された中学校での生活を仲間と共に楽しく過ごしていることと思います。

毎年行われる箱根駅伝。ともすれば駅伝走者に光が当たりがちですが、彼らを支える様々な人々がいてこそ、走者の人たちが輝きます。駅伝走者と彼らを支える人々に関わる映像を交えて、道徳の授業を行いました。3年生も『進路』という道を、さまざまな人々の応援で走っているところです。自分を支えてくれているすべての人の存在や声援に気づき、改めて感謝の気持ちを持つことができましたでしょうか。これから先、幾多の困難があるかもしれませんが、声援を力に変えてゴールに向かって完走し、応援してくれるすべての人たちに感謝の気持ちを伝えていきましょう。下級生のみなさんは、最後まで、力強い激励をお願いします。

《ワークシートより（授業の感想）》

- ・駅伝を走っている人が、最後に恩返しできるといいと言っていたように、いつか自分も恩返しできるように努力したいです。
- ・支えてもらう側が限界まで頑張らなければ、支える側もやる気にはならないと思う。今の自分には、努力をすることで恩返しをするしかないと思った。
- ・僕も、学力や卓球を競い合う仲間がいたり、応援や指導をして下さる先生方やコーチ、そして、いつも支えてくれている家族がいる。だから、そのような人に感謝して、今よりもさらに頑張っていきたい。高校へいってもそのような関係を築いて、その関係を大切にして、自分を成長させていきたいと思う。

